

## 2020年2月1日 産業教育学会 中国四国地区部会 実施速報

日時： 2020年2月1日(土) 見学・研究会 14:00~17:00 その前後に関連イベント

場所： 学校法人古沢学園（広島都市大学グループ）西風新都キャンパス

## 参加状況：

部会員9名の地方部会ではあるが、学会ホームページやニューズレター等により積極的に広報活動を行った。その結果、表1に示すように、今回の研究・見学会に20名の参加を得ることができた。中国四国地区外からの参加が25%、学会外参加者が50%、部会外参加者が85%と高率であり、学会内他部会や学会外にも開かれたイベントだったと言える。

研究・見学会以外の関連イベント(昼食会、広島観光)にもたくさんの方に参加いただけた。

表1. 2月1日 産業教育学会 中国四国地区部会 参加者属性リスト

No	氏名	所属	地区	学会員	当部 会員	関連イベント		
						昼食会	懇親会	翌日 観光
1	****	企業	中国	○	○	○	○	○
2	****	専門学校	中国	○	○		○	
3	****	専門学校(ホソ校)	中国	○	○		○	
4	****	専門学校(ホソ校)	中国	○				
5	****	専門学校(ホソ校)	中国	○				
6	****	専門学校	中国			○		
7	****	専門学校	中国			○		
8	****	専門学校	中国			○		
9	****	専門学校	中国				○	
10	****	専門学校(ホソ校)	中国					
11	****	専門学校(ホソ校)	中国					
12	****	専門学校(ホソ校)	中国					
13	****	専門学校(ホソ校)	中国					
14	****	大学(学部生)	中国					
15	****	大学(学部生)	中国					
16	****	専門学校	北海道	○			○	
17	****	大学(院生)	関東	○		○	○部分	
18	****	大学	東海	○		○	○	○
19	****	大学	東海	○		○	○	○
20	****	大学	九州	○			○	
人数			15	10	3	7	9	3
割合(%)			75%	50%	15%	35%	45%	15%

研究会： 渡邊慶太さん(学会外ゲストスピーカー)

広島大学大学院社会科学部研究科マネジメント専攻・修了生

「専門学校生におけるリアリティ・ショックに関する研究」

<https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/00032685>

見学会： 専門学校広島工学院大学校

広島都市学園大学健康科学部 リハビリテーション学科

時間割り：

No	項目	補足説明	単位:分			
			標準割合	標準時間	累積時間	終了時刻
20	時間割説明	事務局:片山勝己	1%	2	2	14:01
30	部会長代行挨拶	平田真一先生、含む学会紹介	2%	4	5	14:05
40	受入れ校挨拶	古澤寧治さま	1%	2	7	14:07
51	ゲストスピーカー発表	渡邊慶太さま	15%	27	34	14:34
53	指定質問者コメント	三宅章介先生	3%	5	40	14:39
55	質疑応答	全員参加	9%	16	56	14:55
61	古沢学園概要説明		10%	18	74	15:13
63	質疑応答		1%	2	76	15:15
70	休憩		3%	5	81	15:21
81	古沢学園施設見学①	専門学校広島工学院大学校	13%	23	104	15:44
83	古沢学園施設見学②	広島都市学園大学健康科学部 リハビリテーション学科	13%	23	128	16:07
85	質疑応答	全員参加	14%	25	153	16:33
90	部会内庶務連絡	会計報告等はMLですと報告	1%	2	155	16:34
100	参加者一言コメント	今日の感想等	14%	25	180	17:00
	合計		100%	180		

写真アルバム：

図1. 研究会の様子： ゲストスピーカー発表



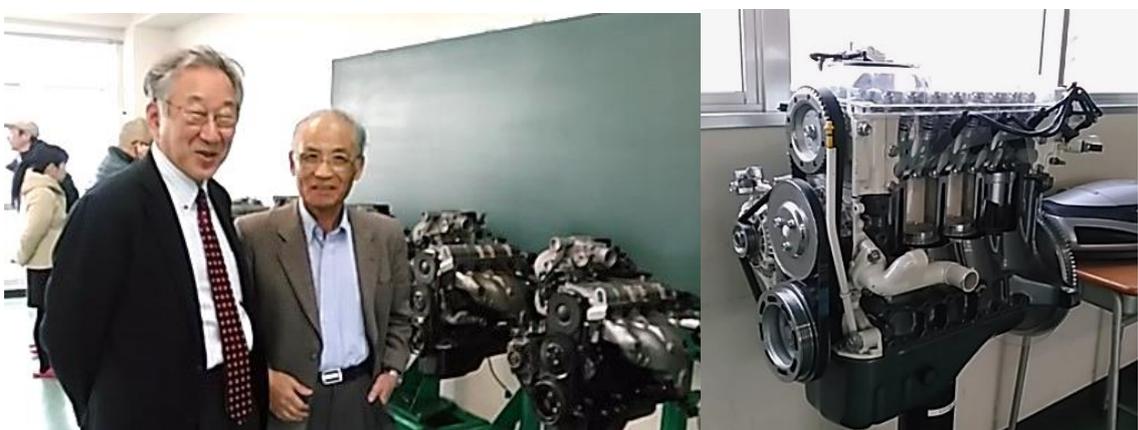
図1補. 研究会の様子： ゲストスピーカー発表を真剣に聞く参加者



図2. 部会長代行挨拶、ゲストスピーカー、指定質問者、施設説明、各自一言コメント



図3. 見学会(自動車整備実習機器： 実習用エンジンと構造学習用カットエンジン)



実習用の自動車エンジンはマツダ製だった。

図3補. 見学会(自動車整備実習機器： 汎用小型スバル製のロビンエンジン)



発電機やポンプ、農業機械用に主に使われる。小型で構造が比較的簡単であり、学生の初期段階の実習用エンジンとして適している。自動車用エンジンの近年主流である DOHC(Double Over Head Camshaft)エンジンではなく、より構造が簡単で基本的なエンジンである、SOHC(Single Over Head Camshaft)や OHV(Over Head Valve)、SV(Side Valve)である。

図4. 見学会(自動車整備実習機器： 廃車寸前中古車のリビルト・板金塗装実習)



マツダ製の初代ユーノスロードスター(NA)。廃車寸前の中古車(価格 20 万円)を購入し、学生に再生(レストア)させた。新車のようにピカピカだった。

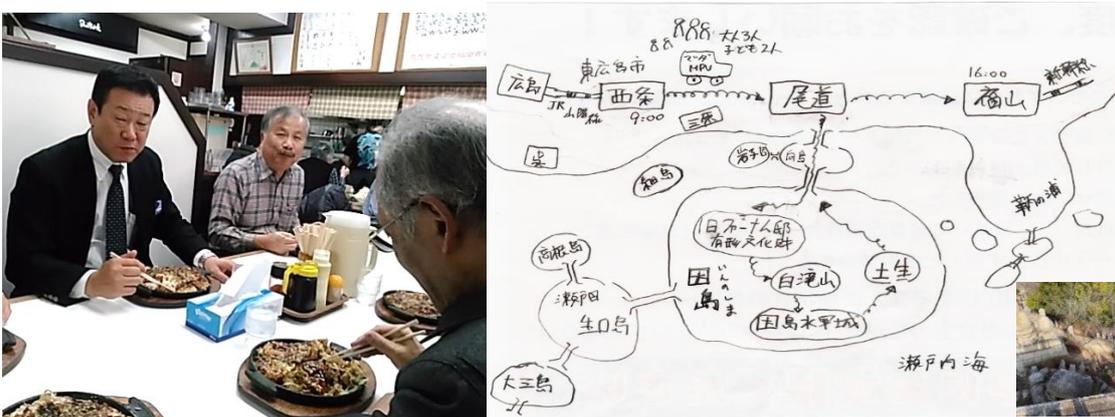
参考サイト：

<https://www.mazda.co.jp/carlife/classicmazda/restore/>

図5. 見学会(自動車故障診断装置、屋内配線実習製作、入浴介護装置)



図6. 関連イベント昼食会： 広島名物「お好み焼き」昼食会、翌 2/2 の尾道市因島観光



### 研究会メモ：（ゲストスピーカー発表のキーワード）

- ・大学生に比べ、専門学校生の途中退学率が高い(前者 7%程度、後者 14%)
- ・日本は「やり直せない社会」、退学者の 6 割が非正規雇用。
- ・原因はリアリティ・ショック(入学前のイメージと入学後の現実のギャップ)?
- ・専門学校生を対象にした退学要因・メカニズムを検討する。
- ・退学率と学力偏差値は負の相関にある。
- ・リアリティ・ショックは専門学校生の退学に、どのように関係しているのか?
- ・アンケート調査 660 人、教員へのヒヤリング 4 校。
- ・専門学校では、教員と学生の関係が密： 教員が学生を手厚くサポートしている。
- ・結論： リアリティ・ショックと退学率の高さに相関関係が見られない。

### 見学先学園概要説明メモ：

- ・「広島医療保健専門学校、理学療法学科(4 年制)School Guide 2020」により説明
- ・1974 年経営教室が起源、1987 年学校法人認可、2009 年に広島都市学園大学開学
- ・自動車整備、建築・配電、福祉、健康、製菓、子ども教育と現在 7 つの学校を経営

### 見学会メモ：

- ・土曜日に学生がたくさんいた。医療系は今が国家試験直前の猛勉強時期とのこと。
- ・土曜でも職員が多く勤務していた。職員を A 組、B 組に分け、半数が土曜勤務。  
(学園の学生に対する手厚く、きめ細かいサポートの現れと筆者解釈)
- ・専門学校基準で建てられた校舎と、大学基準で建てられた校舎が隣接している場合もあり、それを繋ぐ階段に高低差があった。
- ・見学中にすれ違う、事務職員の方、学生の皆さんがにこやかに挨拶をしてくださり、とても感じがよかった。

### 見学会後の質疑応答(関連情報)メモ：

- ・専門学校・理学療法学科のパンフレットに社会人入学のことが書いてあったが、もう少し詳しく教えてもらいたい。
- ⇒一旦社会人になった後、その仕事を辞めて全日制の専門学校の学生となった人のところである。割合としては一割以下。アルバイトをしながら学生をしている者も多く、経済的には苦しい学生生活を送っているようだ。
- ・一級技能士や技能五輪のメダリストを講師として工業高校等に「マイスター」との呼称で派遣しているお手伝いをしている。こうしたマイスターを専門学校で講師として迎えてはどうか? 広島県の場合、マツダ(株)にそうした人材が多くいるはずだ。
- ⇒広島県ではあまり実例がないが、可能であれば利用したい。製菓専門学校で少数ながら、例がある。
- ・専門学校教員は殆どが実務経験者だ。
- ・本学園卒業生が本学園専門学校の講師となり始めた。
- ・日本の私立学校は塾から発生しているものが多い。慶応義塾大学はその代表例だ。

- ・短期大学、専門学校が多くが私立学校だ(逆に高専は殆どが国立)。
- ・大学は文部科学省の管轄だが、専門学校の場合、複数の省庁に管轄されている場合が殆どである。文科省以外に看護・福祉系の専門学校は厚生労働省に、自動車整備系の専門学校は国土交通省にそれぞれ併行して管轄されている。このことに専門学校経営の難しさがある。
- ・専門学校の入学者の基礎学力レベル(中学、高校レベル)の差が段々と大きくなりつつある。でも、どんな学生であろうと夢として描いた資格が取れるよう、学園も教員も努力し、実際に全員合格に向け実績を積み重ねていっている。
- ・一時期、専門学校の入学者に通信制高校の卒業生多い時期があった。
- ・私自身、専門学校の職員だが、他の専門学校を見る機会があまりない。今日はそれができて良かった。

### 懇親会で出た話題：

- ・部会の活性化が学会の活性化につながると思う。部会活動はしっかりやって欲しい。
- ・専門部会は深く、地区部会は広くそして他者(例：学会未加入者、他学会、一般市民)との交流・連携に注力すべきでは？
- ・各地区に居住・勤務する学会員全員が当該地区の地区部会に入会するようにすべきだ。現状は、当該地区に居住・勤務する学会員の内、地区部会に加入を希望する者だけが地区部員となっている(背景：該当者全員の連絡先が会員名簿だけでは分からない)。
- ・学会員でないゲストスピーカーにいくらかの謝金を支払い、当学会加入の動機付け・初期的資金援助とすることはいい方法だ。
- ・学会から部会への補助金を、部会員内で均等分配することも一案だが、学会をさらに広げる、次の新しい人を呼び集める…との意味ではあまりいい方法ではないのでは？

### 本報筆者所感：

- ・多くの方に参加いただいたことに感謝します。しかも部会外の方が大半でした。本学会に未加入の方が半数でした。本学会を紹介することや、学会とはどんな所かを一般市民の方に紹介することもできたと思います。
- ・学会の第一の目的・使命はその分野の学問の最先端を極め、同分野の研究者同士がそれを「最先端」とであると認め合うことだと思います。と同時に、それを実務に適応する用意をしたり、その学問の意味を市民一般に分かりやすく伝えたりすることも忘れてはいけません。その一試行が今回の部会イベントできたと思います。
- ・ある一定のベース(産業・職業教育学に対する関心)を共通として、少しずつ立ち位置が違う者同士(例：大学教員、実務家)が交流し、違いに気づき合い、そして、次の学びや研究に進む切っ掛けを得る…ことはとても大切だと思います。そんな出会いの場としての「中国四国地区部会」をこれからも続けていきたいと…改めて思いました。
- ・今回のホスト校古沢学園の皆さん、学会外ゲストスピーカー渡邊慶太さん、そして参加いただいたすべての皆さんに再度感謝申し上げます。ありがとうございました。

(文責、 中国四国地区部会事務局：片山勝己)